

# 自己評価・施設関係者評価 結果公表シート

認定こども園 山のまち

## 1. 教育・保育 目標

- ・教育・保育の質の向上、子ども一人一人を大切にされた保育内容の充実を全職員で共通理解を深めながら運営を行う。
- ・様々な視点から、子どもを中心に考える教育・保育の充実とは何なのかを具体的な課題としてあげ、計画的にすすめて実行していく。
- ・乳幼児と老人の共生を実践する中で、社会状況に応じた関わりを重ね、共に育ちあえる関係性をより構築できるように努め、認定こども園おっこう山独自の幼老共生の確立を目指す。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・異年齢での関わりにおける子どもの育ち
- ・様々な視点から見る保育環境の整備
- ・各年齢にあった教育保育の提供の現状

## 3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和5年12月20日(水) 14:00~15:30
参加者	副園長、クラス担任職員

評価項目	評価・結果	理由
(1) 異年齢での関わり	C	異年齢活動は行っているが、時間枠を超えた関わりが見られてもよい
(2) 保育環境の整備	B	職員同士の話し合いにより良い環境づくりに努めているが、別の視点からの意見も必要
(3) 各年齢にあった教育保育の提供	B	子どもの育ちに合わせた教育保育を行おうと努めているが、様々な角度からの視点が必要

## 4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・異年齢での関わり 異年齢活動を意図的に組み込んでいるが、活動の幅の広がりが必要。</li><li>・保育環境の整備 各年齢の発達段階に応じた環境の工夫について検討を続ける。</li><li>・各年齢にあった教育保育の提供 クラス環境を活かした教育保育の実践が行われているが、より多くの視点を聞く事で更に充実させていきたい。</li></ul>

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## 5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和5年12月26日(火) 9:30~14:30
参加者	【山のまち】 園長、副園長、主幹保育教諭、保育教諭(12名) 【外部】 統括園長、鈴蘭台北町(3名)、おっこう山(2名) 桜の宮こども園(3名) 小規模すずきた(2名)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みてみて保育</li> <li>・園庭での異年齢交流</li> <li>・各保育室での教育保育実践</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>

## 6. 施設関係者評価

桜の宮こども園 参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大枠の環境構成が整っているからこそ、細かいところの環境整備に目が向けられたらより良くなる。</li> <li>・園全体の環境が広いからこそ、導線の工夫が見られる。その上で職員間の連携を一層充実させる意識付けが必要。</li> </ul>
鈴蘭台北町こども園 参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具の片付け場所がきちんと決まっており、環境構成が整っている。その上で、生活面とあそびの流れが整っていることで、落ち着いた生活が送れているように感じる。</li> <li>・コーナーの作り方を決めた職員だけでなく、職員全体で考える機会を重ねると、一層教育保育の充実が図れる。</li> </ul>
おっこう山 参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナーをしっかり作り、子ども一人一人のあそびが充実している。職員間の連携も取れていたが、子どもの導線範囲が広がったので、安全面も再度考慮が必要。</li> </ul>
小規模すずきた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭で見つけた自然物ですぐにあそべるような工夫があった。子どもの「今」を叶えているように思う。</li> </ul>
統括園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あそびは、学びであり生活そのものである事を頭に置いて置く事で教育保育の在り方が見えてくるもの。</li> <li>・子どもが片付けやすい環境の工夫が見られ、些細な工夫が子どもの生活の安定に繋がるもの。</li> <li>・保育者自身の「～ねばならない」を取っ払う事で、教育保育の深見が増す。</li> <li>・一人一人を大切にすることは、必ず質の向上に繋がる。</li> </ul>

## 7. 今後取り組むべき課題

課 題	取組み方法
異年齢での関わり	計画的な異年齢交流に加えて、緩やかな異年齢の関わりが持てる機会を考え、自然発生的に子ども同士が関わり、互いに刺激を与えながら育ち合えるような工夫を考える。
保育環境の整備	細やかな環境整備の在り方を職員全体で思案し、実践の中で取り組めるように努める。
各年齢にあった教育保育の提供	目の前にする子どもの興味関心に合わせた教育保育内容を見つめる事で、必然的に各年齢にあった教育保育の提供が成される。だからこそ、様々な角度から子どもの興味関心は何なにかを見つめていく必要がある。